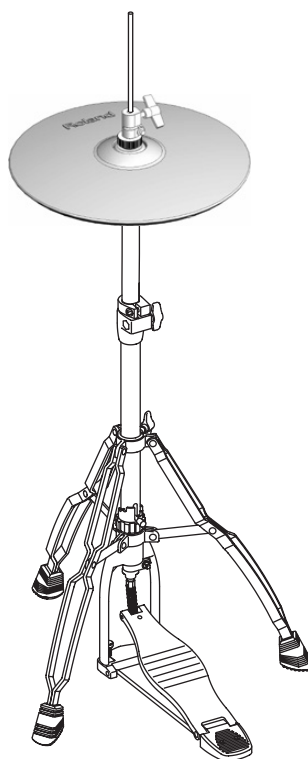


V-Hi-Hat VH-11

取扱説明書

このたびは、ローランドVハイハット VH-11 をお買い上げいただき、ありがとうございます。

VH-11 を使用する際には、音源モジュールでの設定が必要です。P.6、P.8 をご覧ください。



※ ハイハット・スタンドは別売です。
取り付け可能なスタンドについては P.5 をご覧ください。

この機器を正しくお使いいただくために、ご使用前に「安全上のご注意」(P.2) と「使用上のご注意」(P.3) をよくお読みください。また、この機器の優れた機能を十分ご理解いただくためにも、取扱説明書をよくお読みください。取扱説明書は必要ときにすぐに見ることができるよう、手元に置いてください。

安全上のご注意

火災・感電・傷害を防止するには

⚠ 警告と ⚠ 注意の意味について

 警告	取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を表わしています。
 注意	取扱いを誤った場合に、使用者が傷害を負う危険が想定される場合および物的損害のみの発生が想定される内容を表わしています。 ※物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットにかかわる拡大損害を表わしています。

図記号の例

	△は、注意（危険、警告を含む）を表わしています。 具体的な注意内容は、△の中に描かれています。 左図の場合は、「一般的な注意、警告、危険」を表わしています。
	⊘は、禁止（してはいけないこと）を表わしています。 具体的な禁止内容は、⊘の中に描かれています。 左図の場合は、「分解禁止」を表わしています。
	●は、強制（必ずすること）を表わしています。 具体的な強制内容は、●の中に描かれています。 左図の場合は、「電源プラグをコンセントから抜くこと」を表わしています。

----- 以下の指示を必ず守ってください -----

警告

- この機器を使用する前に、以下の指示と取扱説明書をよく読んでください。



- この機器を分解したり、改造したりしないでください。



- 修理／部品の交換などで、取扱説明書に書かれていないことは、絶対にしないでください。必ずお買い上げ店またはローランド・サービスに相談してください。



- 次のような場所での使用や保存はしないでください。



- 温度が極端に高い場所（直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など）
- 水気の近く（風呂場、洗面台、濡れた床など）や湿度の高い場所
- 雨に濡れる場所
- ホコリの多い場所
- 振動の多い場所



- この機器を、ぐらつく台の上や傾いた場所に設置しないでください。必ず安定した水平な場所に設置してください。



警告

- この機器に、異物（燃えやすいもの、硬貨、針金など）や液体（水、ジュースなど）を絶対に入れないでください。



- お子様のいるご家庭で使用する場合、お子様の取り扱いやいたずらに注意してください。必ず大人のかたが、監視／指導してあげてください。



- この機器を落としたり、この機器に強い衝撃を与えないでください。



注意

- 接続したコードやケーブル類は、複雑にならないように配慮してください。特に、コードやケーブル類は、お子様の手が届かないように配慮してください。



- この機器の上に乗ったり、機器の上に重いものを置かないでください。



- P.5に記載の仕様を満たしたハイハット・スタンドだけに取り付けてください。



⚠ 注意

- 取り外したネジは、小さなお子様が悪く飲み込んだりすることのないようお子様の手の届かないところへ保管してください。



⚠ 注意

- ハイハットとモーション・センサー・ユニットの間に指などをはさまないように注意してください。



使用上のご注意

2、3 ページに記載されている「安全上のご注意」以外に、次のことに注意してください。

設置について

- 直射日光の当たる場所や、発熱する機器の近く、閉め切った車内などに放置しないでください。変形、変色することがあります。
- 極端に温湿度の違う場所に移動すると、内部に水滴がつく（結露）ことがあります。そのまま使用すると故障の原因になりますので、数時間放置し、結露がなくなってから使用してください。
- 本機の上にゴム製品やビニール製品などを長時間放置しないでください。変形、変色することがあります。

お手入れについて

- 通常のお手入れは、柔らかい布で乾拭きするか、強く絞った布で汚れを拭き取ってください。汚れが激しいときは、中性洗剤を含んだ布で汚れを拭き取ってから、柔らかい布で乾拭きしてください。
- 変色や変形の原因となるベンジン、シンナーおよびアルコール類は、使用しないでください。

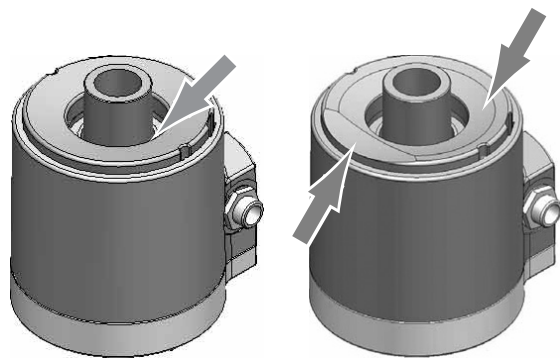
修理について

- お客様がこの機器を分解、改造された場合、以後の性能について保証できなくなります。また、修理をお断りする場合もあります。
- 当社では、この製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打切後 6 年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。なお、保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能な場合がありますので、お買い上げ店、または最寄りのローランド・サービスにご相談ください。

その他の注意について

- 故障の原因になりますので、ボタン、つまみ、入出力端子などに過度の力を加えないでください。
- ケーブルの抜き差しは、ショートや断線を防ぐため、プラグを持ってください。
- 音楽をお楽しみになる場合、隣近所に迷惑がかからないように、特に夜間は、音量に十分注意してください。ヘッドホンを使用すれば、気がねなくお楽しみいただけます。
- 本機は、演奏時の打撃音を小さくする設計になっていますが、床や壁を通じての振動は意外によく伝わりますので、特に夜間やヘッドホン使用時の演奏は、隣近所に迷惑がかからないように注意しましょう。

- 輸送や引っ越しをするときは、この機器が入っていたダンボール箱と緩衝材、または同等品で梱包してください。
- この機器が入っていた梱包箱や緩衝材を廃棄する場合、各市町村のゴミの分別基準に従って行ってください。
- ハイハット・スタンドは三脚によって支えられています。転倒を防ぐため、設置時には三脚を十分に開いてご使用ください。
- ハイハットのゴム表面が白くなることがありますが、使用上は問題ありません。
- VH-11 専用クラッチをハイハットから取り外したり、分解したりしないでください。
- 長期間使用しないときは、モーション・センサー・ユニットに力がかからないよう、ハイハットを開いた状態にして保管してください。
- モーション・センサー・ユニットの、左下図の矢印で示した部分には高精度のセンサーが内蔵されています。強い衝撃を加えたり、すきまから異物が入ったりしないよう注意してください。



- モーション・センサー・ユニットのハイハットに接する部分（ダンパー）は、使っている年月とともに右上図の矢印で示したように摩耗することがあります。ダンパーが摩耗すると、オフセット調整を正しく行えなくなったり、ハイハットの揺れが不自然になったりすることがあります。このような場合、ダンパーを交換してください。ダンパーの交換に関しては、ローランド・サービスにご相談ください。
- 打面部のゴム部品には、性能維持のために劣化防止剤などを添加してあります。時間経過に伴い、これらの添加剤が表面に現れて、白く汚れたように見えたり、製品検査時のスティック痕が見えたりする場合がありますが、製品の性能や機能には影響ありませんので、安心してお使いください。

はじめに

主な特長

アコースティック・ハイハットと同じような打感触

市販のハイハット・スタンドに取り付け可能な 1 枚シンバルのフローティング構造のため、スティックの跳ね返りや叩いたときの揺れ、ペダルの踏み込みによるシンバルの上下動作など、アコースティック・ハイハットと同じような演奏感が得られます。

クローズからオープンへの滑らかな変化

ペダルを徐々にオープンしながらパッドを叩くと、開き具合に応じて音色が滑らかに変化します。

フット・スプラッシュ奏法が可能

ペダルを踏み込んで瞬時にオープンすることで音を鳴らすフット・スプラッシュ奏法に対応しています。

クイック・オープンの変化にも対応

完全対応の音源モジュールに接続すれば、クローズの状態でも叩いて瞬時にオープンしたときの音色変化もリアルに表現できます。

エッジ・ショットが可能

エッジ部にエッジ・センサーが内蔵されているので、ボウ部（上面部）とエッジ部（端部）を叩き分けることが可能です（P.9）。

ペダルの自然な踏み心地

ペダルの踏み込み具合やハイハット・スタンドのバネの強さを調節することにより、好みの踏み心地が得られます。

静かな打撃音

打面には消音効果のあるゴムを使用しています。

市販のハイハット・スタンドへ簡単に取り付け可能（P.5）

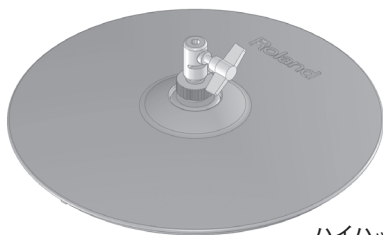
VH-11 への各音源モジュールの対応について

対応状況	音源モジュール
完全対応	TD-30/20X/20/15/12/11/9
対応	TD-10 + TDW-1、TD-8/6V/6

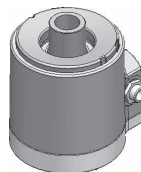
完全対応：オープンからクローズまで、より自然な音色変化が得られます。

対応： オープン／クローズのコントロールが行えますが、完全対応の音源モジュールとはハーフ・オープンなどの表現力が異なります。

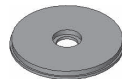
パッケージに入っているもの



ハイハット



モーション・センサー・ユニット



防振プレート



ケーブル・タイ

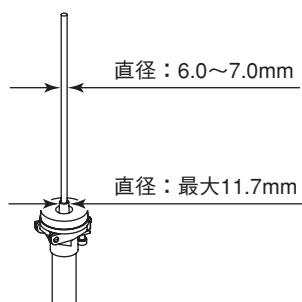


チューニング・キー

ハイハット・スタンドへの取り付け

取り付け可能なスタンド

VH-11 は、下図に示した寸法のスタンドに取り付けることができます。



取り付け方法

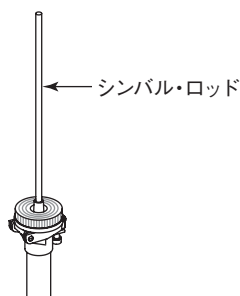
1. ハイハット・スタンドに付属しているクラッチをシンバル・ロッドから取り外します。

※ ハイハット・スタンドに付属のクラッチは使いません。

※ ハイハット・スタンドの、ボトム・シンバルを載せるシンバル受け部分のフェルト部品（あるいはゴム部品）を取り外す必要はありません。

2. シンバル・ロッドがしっかり締めつけられていることを確認します。

シンバル・ロッドの締めつけかたについては、お使いのハイハット・スタンドの取扱説明書をご覧ください。



※ シンバル・ロッドがゆるむと、ハイハットが振動したり回転したりして安定せず、誤動作の原因になります。

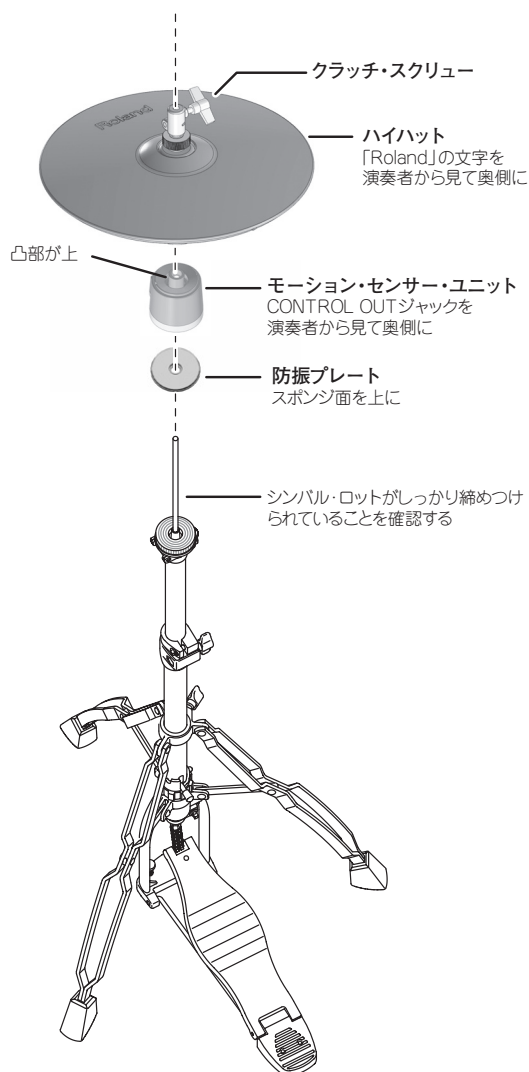
3. 防振プレートをシンバル・ロッドに通してハイハット・スタンドのシンバル受け部分のフェルト部品（あるいはゴム部品）の上に載せます。

防振プレートのスポンジ面を上側にします。

4. モーション・センサー・ユニットをシンバル・ロッドに通して防振プレートの上に載せます。
CONTROL OUT ジャックを演奏者から見て奥側にします。

5. クラッチ・スクリューをゆるめ、ハイハットをシンバル・ロッドに通してモーション・センサー・ユニットの上に載せます。

ハイハットには正しい向きがあります。
「Roland」の文字を演奏者から見て奥側にしたときに、最適な感度が得られます。

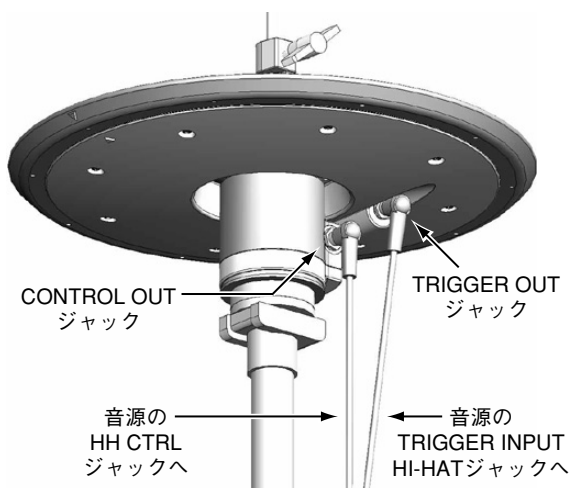


接続と調整のしかた

音源モジュールとの接続

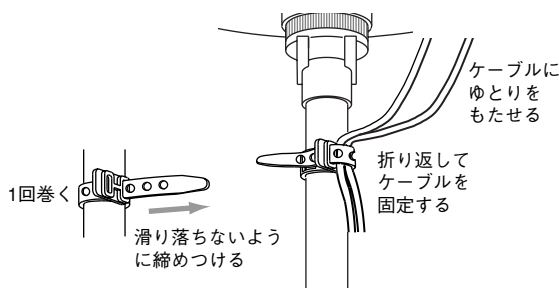
※ 他の機器と接続するときは、誤動作やスピーカーなどの破損を防ぐため、必ずすべての機器の音量を絞った状態で電源を切ってください。

1. VH-11 の TRIGGER OUT ジャックを音源の TRIGGER INPUT の HI-HAT ジャックに、VH-11 の CONTROL OUT ジャックを音源の HH CTRL ジャックに接続します。



※ ステレオ (TRS) ・ケーブルで接続してください。モノラル・ケーブルをご使用になると、エッジ・ショットに対応できません。

2. ケーブルにゆとりをもたせた状態にして、ケーブル・タイで固定します。



音源モジュールと VH-11 オフセットの調整

オープン、クローズやペダルの動きを正しく検出するために、VH-11 のオフセット調整をします。VH-11 と組み合わせて使用する音源モジュールに合わせて、設定してください。

- 音源モジュール TD-30 と組み合わせる場合
本書「音源モジュール TD-30 を使用する (P.6)」をお読みください。
- 音源モジュール TD-15/11 と組み合わせる場合
TD-15/11 取扱説明書「トリガー・パラメーターを細かく設定する [F3] (ADVNC D)」をお読みください。
- 音源モジュール TD-12 と組み合わせる場合
TD-12 取扱説明書「ハイハット (VH-11) の接続と設定」をお読みください。
- その他の音源モジュールと組み合わせる場合
本書「その他の音源モジュールと VH-11 オフセットの調整 (P.8)」をお読みください。

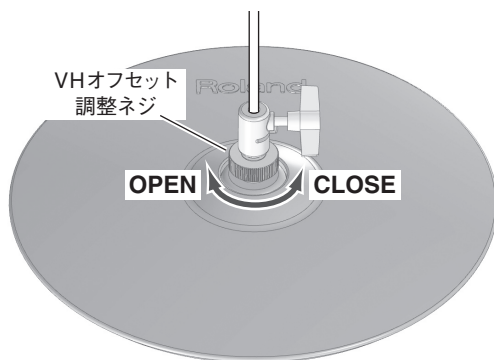
音源モジュール TD-30 を使用する

1. VH-11 が TD-30 に正しく接続されていることを確認します。
2. ハイハットがモーション・センサー・ユニットから完全に離れた状態で、TD-30 の電源を入れます。
3. クラッチ・スクリューをゆるめ、ハイハットをモーション・センサー・ユニットの上に自然に置いた状態にします。
4. [TRIGGER] ボタンを押します。
5. [F1] (BANK) ボタンを押します。
[TRIGGER] ボタンが点灯し、TRIGGER BANK 画面が表示されます。
6. [F3] (HI-HAT) ボタンを押します。
TRIGGER HI-HAT 画面が表示されます。



7. ハイハットの Trigger Type を「VH11」に設定します。

8. TD-30 の画面右側に表示されるメーターを見ながら、VH-11 の VH オフセット調整ネジを回して調整します。



メーターに  が表示されるように調整します。



オフセット調整の目安

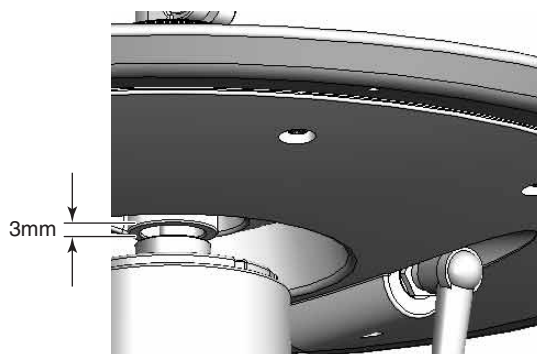
クローズド・ハイハットの音が鳴らしぶらい場合は、VH オフセット調整ネジを「CLOSE」の方向へ回します。オープン・ハイハットの音が鳴らしぶらい場合は「OPEN」の方向へ回します。



強打時に音が途切れるときは、VH オフセット調整ネジを「OPEN」の方向へ回してください。

ハイハットの調整

1. ハイハット下側中心の金属部品とセンサー中心部先端との間隔を 3mm 程度に調整し、クラッチ・スクリューを締めつけます。



※ 間隔は、演奏しやすい距離に調節できますが、狭すぎたり広すぎたりすると誤動作をし、思いどおりに演奏できないことがあります。3mm が最も自然な感じで VH-11 を演奏できる間隔です。

2. ペダルのバネのテンションを、ハイハット・スタンドで調節します。

テンションの調節方法については、お使いのハイハット・スタンドの取扱説明書をご覧ください。

※ スタンドによっては、調節できない場合もあります。



ハイハットには正しい向きがあります。「Roland」の文字を演奏者から見て奥側にしたときに、最適な感度が得られます (P.5)。

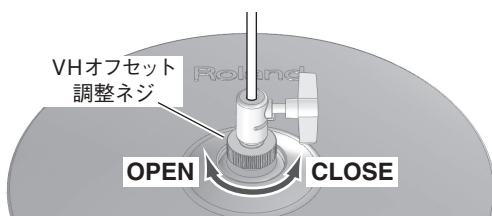
その他の音源モジュールと VH-11 オフセットの調整

音源モジュール TD-20 を使用する

1. VH-11がTD-20に正しく接続されていることを確認します。
2. ハイハットをセッティングして、ペダルから足を離れた状態で、TD-20 の電源を入れます。
※ ハイハットがモーション・センサー・ユニットに触れた状態で電源を入れると、正しく調整できません。
3. クラッチ・スクリューをゆるめ、ハイハットをモーション・センサー・ユニットの上に自然に置いた状態にします。
4. TD-20 の [TRIGGER] ボタンを押します。
5. [F1 (BANK)], [F2 (BASIC)], [F3 (HI-HAT)] ボタンを押して、TD-20 の設定を行います。
※ お使いの TD-20 のトリガー・タイプに「VH11」がある場合は、「VH11」を選びます。その他のパラメーターは、設定する必要ありません。
※ お使いの TD-20 のトリガー・タイプに「VH11」がない場合は、以下の表のように設定します。

ボタン	パラメーター	設定値
[F1 (BANK)]	Trigger Type	VH12
[F2 (BASIC)]	Sensitivity	10
	Threshold	6
[F3 (HI-HAT)]	Hi-Hat Ctrl Type	FD
	CC Max	90
	CC Resolution	NORMAL

6. VH-11 の VH オフセット調整ネジを回して調整します (下記コラム参照)。



音源モジュール TD-10 + TDW-1/TD-8/ TD-6V/TD-6 を使用する

1. VH-11 が音源モジュールに正しく接続されていることを確認します。
2. ハイハットをセッティングして、ペダルから足を離れた状態で、音源モジュールの電源を入れます。
※ ハイハットがモーション・センサー・ユニットに触れた状態で電源を入れると、正しく調整できません。
3. クラッチ・スクリューをゆるめ、ハイハットをモーション・センサー・ユニットの上に自然に置いた状態にします。
4. 音源モジュールの設定を行います。
詳しくは、各音源の取扱説明書をご覧ください。

パラメーター	設定値		
	TD-10 + TDW-1	TD-8	TD-6V/6
Trigger Type	HH	CY1/PD7	CY Type
Sensitivity	6	10	10
Threshold	6	4	4
Curve	Linear	LINEAR	LINEAR
Scan Time	2.0	2.5	2.5
Retrigger Cancel	4	8	8
Mask Time	8	8	8
Xtalk Cancel	20	20	20
Mount Type	CymMount	—	—

5. VH-11 の VH オフセット調整ネジを回して調整します (下記コラム参照)。

TD-10 + TDW-1、TD-8、TD-6V/6 に接続して使用する際の注意

誤動作の原因となりますので、ハイハットを閉じた状態で音源モジュールの電源を入れないでください。必ず開いた状態で電源を入れてください。

オフセット調整の方法

- ・ハイハットのオープン／クローズの動作と音色変化が合うように、お好みで調整してください。
- ・クローズド・ハイハットの音が鳴らしづらい場合は、VH オフセット調整ネジを「CLOSE」の方向へ回します。
オープン・ハイハットの音が鳴らしづらい場合は「OPEN」の方向へ回します。



強打時に音が途切れるときは、VH オフセット調整ネジを「OPEN」の方向へ回してください。

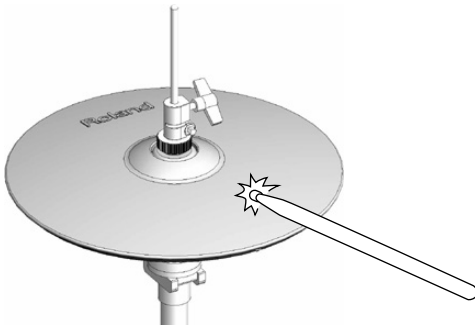
奏法について

オープン／クローズ

ハイハット・スタンドのペダルの踏み込み具合により、オープンからクローズまで音色が連続的に変化します。
フット・クローズ（ペダルを踏み込んで鳴らす）やフット・スブラッシュ（ペダルを踏み込んで瞬時にオープンして鳴らす）も可能です。

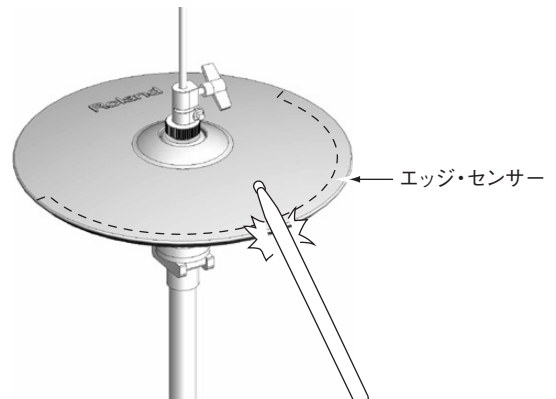
ボウ・ショット

ハイハットの打面を叩く奏法です。接続したトリガー・インプットのヘッド側の音色が鳴ります。



エッジ・ショット

ハイハットのエッジ（端）をスティックのショルダー部で叩く奏法です。図のエッジ・センサーの位置が叩かれたときに、接続したトリガー・インプットのリム側の音色が鳴ります。



ハイハットには正しい向きがあります。
「Roland」の文字を演奏者から見て奥側にしたときに、最適な感度が得られます（P.5）。

主な仕様

VH-11（V ハイハット）

サイズ： 12 インチ

トリガー： 2（ボウ／エッジ）

接続端子： トリガー・アウト・ジャック
コントロール・アウト・ジャック

外形寸法： 314（幅）× 314（奥行）× 154（高さ）mm

質量： 1.7kg

付属品： 取扱説明書、防振プレート、接続ケーブル、
チューニング・キー、ケーブル・タイ、保証書

※ 製品の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

故障かな？と思ったら

音が鳴らない

ケーブルを正しく接続していますか？

VH-11 の TRIGGER OUT ジャックを音源の TRIGGER INPUT の HI-HAT ジャックに、VH-11 の CONTROL OUT ジャックを音源の HH CTRL ジャックに接続してください (P.6)。

エッジ・ショットで音色が変わらない

ステレオ・ケーブルを使用していますか？

接続にはステレオ (TRS) ・ケーブルをご使用ください。モノラル・ケーブルを使用すると、エッジ・ショットをしても音色が変わりません。

エッジ・センサーのあるエリアを叩いていますか？

VH-11 は手前部分だけにエッジ・センサーが組み込まれています (P.9)。

「Roland」の文字が、演奏者から見て奥側になるようにセッティングします (P.5)。

フット・スプラッシュが鳴りづらい

音源モジュールに TD-30/20X/20/12 をお使いの場合は、「Foot Splash Sens」を調節してください。

TD-10/8/6V/6 などの音源モジュールでは、VH-11 のオフセット調整やスタンドの調整、ハイハットの開き具合、ペダルのパネのテンションなどにより、フット・スプラッシュの鳴りやすさが変わります。

音が途切れる

VH-11 のオフセット調整をしましたか？

VH-11 本体の VH オフセット調整ネジを回して調整してください (P.6、P.8)。

- VH オフセット調整ネジを「CLOSE」の方向へ回しすぎると、強打時に音が途切れることがあります。
- 演奏しているうちに、オフセットが若干変化することがあります。
- お使いのスタンドによっては、さらに微調整が必要な場合があります。

オープン／クローズのコントロールができない

VH-11 のオフセット調整をしましたか？

VH-11 本体の VH オフセット調整ネジを回して調整してください (P.6、P.8)。

- ハイハットのオープン／クローズを正しく表現するには、VH-11 のオフセット調整が必要です。ハイハットのオープン／クローズの動作と音色変化が合うようにお好みで調整してください。
- 演奏しているうちに、オフセットが若干変化することがあります。
- お使いのスタンドによっては、さらに微調整が必要な場合があります。

ハイハットを開いた状態で電源を入れていますか？

TD-10/8/6V/6 などの音源モジュールをお使いの場合、ハイハットを閉じた状態で電源を入れると、誤動作の原因になります。

鳴りかたがおかしい

トリガー・タイプは正しく設定されていますか？

ご使用になる音源モジュールのトリガー・パラメーターの設定を行ってください (P.6、P.8)。

ハイハットの向きは正しいですか？

ハイハットには正しい向きがあります。「Roland」の文字を演奏者から見て奥側にしたときに、最適な感覚が得られます (P.5)。

VH-11 専用クラッチを使用していますか？

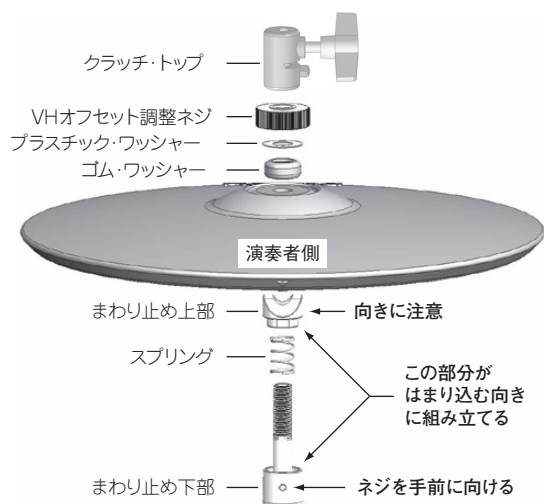
ハイハット・スタンドに付属のクラッチは、VH-11 専用クラッチと形状が異なるため、VH-11 のセンサーが正常に動作しません。必ず VH-11 専用クラッチをお使いください。

ハイハット・クラッチを外してしまったときは

誤ってハイハット・クラッチをハイハットから外してしまった場合、以下の図のように組み立て／取り付けてください。

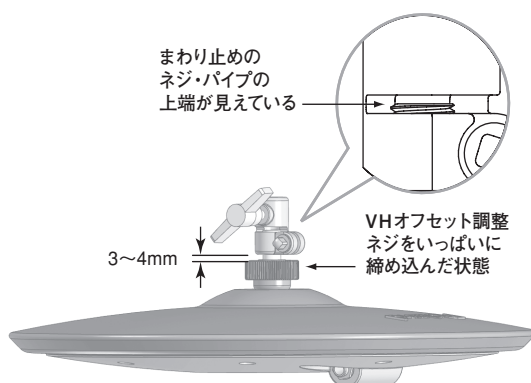


ハイハット・スタンドに付属のクラッチは、形状が異なるため VH-11 では使用できません。必ず VH-11 専用クラッチをお使いください。



※ まわり止め上部の山の向きをハイハットの溝に合わせてください。

正しく組み立てられた状態



お問い合わせの窓口



ホームページをご覧ください

Q&A、チャットサポート、メール、電話でのお問い合わせ

Roland製品

https://roland.cm/roland_support



BOSS製品

https://roland.cm/boss_support



'21. 04. 01 現在